

あだたら

九月十五日(日)〜十六日(月)

九月山行・日光白根山

報告・□□□□

第431号
発行所 久田町
山会
あだたら

編集部長 橋本 浩
〒280-0243 千葉県久田町
0243(22)4245
FAX可・渡辺 正



12時40分、日光白根山頂、2578m

【参加者】□□□□□□、□□□□□□、□□□□□□
【行動】九月十五日(日)、朝五時、□□宅に集合し、五時十五分に私の車を出発した。当初は十五日に前泊して十六日に登山することを考えていたが、予報は十五日夕方から天気が崩れて十六日は一日中雨なので早朝に出発し、その日のうちに山頂を目指して夕方に下

山することにして。二本松ICに入る前に朝食と昼食を調達し、上河内SAで朝食休憩、宇都宮ICからは日光宇都宮道を清滝ICまで進む。さらに国道一〇号いは坂を西に進み県界を超える。この日宿泊するペンションコスモスに八時半に到着した。ロープウェイ山麓駅はペンションからすぐ近くなので、この宿でロープウェイ割引チケットを購入できるので最初に宿に立ち寄ることにしたのだ。チケットを入手しロープウェイ山麓駅がある丸沼スキー場駐車場まで整備を整えロープウェイに乗った。標高二千

m、山頂駅の天候は晴れ間が少し見える曇り、白根山

方面は雲が低く真っ白で山体が確認できなかった。風は微風で登山にちょうどよい気温である。九時三十分より登山開始。山頂駅の近くの二荒山神社を過ぎるとすぐ森林地帯となる。登山道はよく整備されていて歩きやすい。二一〇〇m付近の避難小屋(現在使用禁止)までは遊歩道も兼ねているためだ。花は少ないがリンドウ、コマクサ、ハクサンフロウが見られた。また、葉っぱだけだがカニコウモリの群生が随所に見られた。避難小屋を過ぎるとさらに深い樹林地帯となるが暗い感じは全くない。森の空気がとてもこころよい。登山道以外の地面は苔に覆われていて名の知れない多種類の茸が生えている。苔と茸のワンダーランド。ジブリアニメの世界だ。進むにつれて道は少しずつ険しくなっていく。標高二四〇〇mくらいまでは山頂に対して巻き道に登ってきたがここからは山頂方向の急登に変わる。森林限界が近づくと岩がゴロゴロとし始める。山岳ガイドにはこの辺りが花畑で展望が良いと書いてあったが花の時期は過ぎていた。枯れている多くの花はたぶんハンゴ

ンソウではないか。その他にはシャクナゲも見られる。雲で遠くまでは見えないうが、晴れていればさぞ雄大なパノラマであろう。さらに登ると岩が細かくなり歩きにくくなる。山頂はまだずっと上に見える。他のパーティの誰かが「富士山を登っているようだ」と言った。気温が急に下がり霧も少しずつ濃くなり時より強い風も吹いてくる。さらに上り詰めると溶岩ドームが前に立ち上がった。この岩場を登った頂に奥白根神社があった。このとき私はここが山頂だと勘違いしていた。霧は濃く真っ白で景色は何も見えない。その中で私は白根山山頂の何かまたは三角点のような物があるのかと辺りを探し回ったが見つからなかった。実は日光白根山の山頂部は三つのピークがあるのだ。霧が晴れたときもう一つのピークが見えた。どうやらそちらが山頂のようだ。神社わきを一度降りて次のドームを登ると多くの人が集まり渋滞していた。十二時四十分、二五七八mの山頂に到着した。ここまではほぼ登山計画の通りの時間だ。山頂は狭く多くの人が次々にやってくるので長居はできない。少し下り、風の影響のない岩陰で昼食を取ることにした。十三時三十分下山を開始だ。ここでまた勘違いがあった。登ってきた

た方向と反対の座禅山/弥陀ヶ池方面に下るつもりだったが、ピークがもう一つあることを知らなかったのだ。辺りが真っ白だったこともあり、もう一つの溶岩ドームが見えたときそれが神社があったドームであると勘違いし道を間違えたのと驚いた。このときまでピークが三つあり、それらを縦走して北側の登山道に抜け出すことをまだ知らなかったのだ。地図上では十m程度の急激に盛り上がった地形がわかりにくい。しかしよく地図を確認するとそうなっている。落ち着いて周囲の状況とヤママップで方角を確認し、三つ目のピークを登った。そこでやっと弥陀ヶ池方向を示す道標を見つけた。山頂付近では他にも迷っている人がいた。後から来た女性一人の登山者も「何度もぐるぐる回ってやっとこっこの方向に來れた」と言っていた。追いついて行ったら、晴れていればまたは違っていたのかも知れないが、霧で周囲の状況がつかみにくかったことと初めてこの山でこんな場所か分かっていなかったことと道をロスしそうになったのだ。北側のコースも展望がよいとガイドにはあるが、下山は容易でなかった。急な岩場を尻餅ついて下るような箇所がいくつもあり、予定した時間を大幅に上回ってしまった。多く

の客はピストンで南側からの道を引き返したようである。晴れていれば弥陀ヶ池と遠くには菅沼まで見渡せたであろうと思いがから時間にかけて下った。座禅山下の辻には十四時四十五分に到着した。ここから山頂駅まではまだ遠いがロープウェイ運行時刻は十六時半までだ。余裕を持って十六時には山頂駅に戻りたい。そこで計画とは違ったが最短コースで山頂駅を目指すことにした。七色平から大日如来の分岐を経て十五時二十分にも来た道に出ることができた。ここから山頂駅までは標準コースタイム四十分、運行時間内に山頂駅まで行けそうだが予断は禁物だ。小休憩を取り先を急いだ。またしばらく進むと雨がパラパラ降り始めた。くやしいけど天気予報の通りだ。雨がだんだん強くなってくるので、カッパとザックカバーを装着したが、雨は益々強くなる。ついには土砂降り状態。道が川に変わる。雨宿りするような場所もなく靴の中までもずぶ濡れになりながら早足で山頂駅を目指す。道が少しくつろげたり二荒山神社が見えてきた。神様に無事の下山を報告し、十五時五十五分やっと山頂駅に到着できた。山頂駅の売店で二荒山神社御朱印を購入している。さっきまであれほど強く降っていた雨が急

に上がった。青空は見えないまでも雲が次第に高くなっていき、朝には見ることができなかった白根山が全容がはっきり見えるようになった。ピークが三つあるのがよく見える。素晴らしい山だ、晴れた時できれば花がきれいな時に是非もう一度来たい。駅売店やレストランのスタッフが店じまいの準備を始めたので、ロープウェイで駐車場に戻ることになった。全身びしょ濡れなので、国道一〇号線を少し下った白根温泉業師之湯に行く。最高に気持ちいい湯だった。温泉の後コンビニに寄り宿にチェックインした。(二面に続く)

に上がった。青空は見えないまでも雲が次第に高くなっていき、朝には見ることができなかった白根山が全容がはっきり見えるようになった。ピークが三つあるのがよく見える。素晴らしい山だ、晴れた時できれば花がきれいな時に是非もう一度来たい。駅売店やレストランのスタッフが店じまいの準備を始めたので、ロープウェイで駐車場に戻ることになった。全身びしょ濡れなので、国道一〇号線を少し下った白根温泉業師之湯に行く。最高に気持ちいい湯だった。温泉の後コンビニに寄り宿にチェックインした。(二面に続く)

に上がった。青空は見えないまでも雲が次第に高くなっていき、朝には見ることができなかった白根山が全容がはっきり見えるようになった。ピークが三つあるのがよく見える。素晴らしい山だ、晴れた時できれば花がきれいな時に是非もう一度来たい。駅売店やレストランのスタッフが店じまいの準備を始めたので、ロープウェイで駐車場に戻ることになった。全身びしょ濡れなので、国道一〇号線を少し下った白根温泉業師之湯に行く。最高に気持ちいい湯だった。温泉の後コンビニに寄り宿にチェックインした。(二面に続く)

に上がった。青空は見えないまでも雲が次第に高くなっていき、朝には見ることができなかった白根山が全容がはっきり見えるようになった。ピークが三つあるのがよく見える。素晴らしい山だ、晴れた時できれば花がきれいな時に是非もう一度来たい。駅売店やレストランのスタッフが店じまいの準備を始めたので、ロープウェイで駐車場に戻ることになった。全身びしょ濡れなので、国道一〇号線を少し下った白根温泉業師之湯に行く。最高に気持ちいい湯だった。温泉の後コンビニに寄り宿にチェックインした。(二面に続く)



賑やかな白根山頂



山頂は三ツ峰

秋の僧悟台登山道整備

九月十四日 (土) 下見、報告・〇〇〇〇〇〇



鉄山避難小屋下

14日の下見で撮影 (ササ、しっかり被っている)

【下見参加者】 〇〇〇〇〇、
〇〇さんご夫婦
【行動】 昨日 (十四日) の
下見の結果、整備すべき箇
所、鉄山避難小屋から笹平

分岐まで、かなり荒れてま
す。なので整備参加者全員、
奥岳からが良いと思いま
す。笹平から水場付近は大
丈夫でした。

九月二十九日 (日) 笹平草刈り作業

報告・〇〇〇〇〇

【草刈参加者】 〇〇〇〇〇
さん、〇〇〇〇〇さん、〇
〇〇〇〇さん、〇〇〇〇〇さ
ん、〇〇〇〇〇さん、〇〇〇〇〇さ
ん、〇〇〇〇〇さん、〇〇〇〇
〇さん、〇〇〇〇〇さん、そ
して〇〇〇、計十名、名簿順。

合。今回の登山道整備は、
薬師から五葉松平と山頂駅
から笹平分岐の二班構成で
した。私の報告は、山頂駅
から笹平分岐までの報告で
す。
小雨の降る中、ゴンドラ
を使用し出発しました。刈
私機の刃を付けたままでは

合。今回の登山道整備は、
薬師から五葉松平と山頂駅
から笹平分岐の二班構成で
した。私の報告は、山頂駅
から笹平分岐までの報告で
す。

合。今回の登山道整備は、
薬師から五葉松平と山頂駅
から笹平分岐の二班構成で
した。私の報告は、山頂駅
から笹平分岐までの報告で
す。



作業当日、笹平なので、ロープウェイで登山し、現場まで往復。

頼りに西向き地蔵へ向かい
ました。〇〇さんの解説に
よると、江戸時代、口減ら
し目的で会津から連れてこ
られた方々を徳び設置した
とのこと。「故郷の会津は
西の方向なので地蔵は西向
きに建てられた」と悲しい
表情で話されていたのが印
象的でした。その後、鉄山
避難小屋から笹平分岐まで
草が覆いかぶさっている箇
所を重点に整備しました。
道幅が狭く高低差もあるの
で刈私機の取り回しが難し
く慣れるまでに時間を要し
ました。私は笹平分岐から
箕輪方面へ十分程、〇〇会
長は僧悟台方面へ同じく十
分程作業を追加しました。
鉄山避難小屋に集合し昼食
です。〇〇〇さんから尾花
沢スイカ皮の佃煮が美味し
いと聞き、尾花沢に行く機
会があったら購入したいと
思いました。昼食後、刈私
機の刃をザックに収納し下
山開始です。下山途中の悪
路で土嚢に石を詰め足場の
設置も行いました。ゴンド
ラ最終時間の十六時二十分
に乗り込み、作業終了とな



笹平で作業



矢筈山頂、向いは鉄山



笹平刈払い後、向い鉄山



五葉松平で作業



五葉松平で作業

りました。皆様、お疲れ様
でした。
今回の整備作業で、安達
太良の歴史や地名の知識が
深まりより身近に山を感じ
ることができました。あり
がとうございました。



吹割の滝

【日光白根山 (続き)】
報告 〇〇〇〇〇〇
九月十六日 (月)、洋風
のおいしい朝食を頂き八時
半にチェックアウトする。
目的の地は景勝地吹割の滝、
大河ドラマ「葵徳川三代」
オープニングに出てくる大
きな滝だ。東洋のナイアガ
ラと最近テレビで紹介され
たので一度見たかったの
だ。途中道の駅からたしなで
みやげを購入し、十時に目
的地に到着した。一時間く
らい散策し、土産や見物、
けっきょくここで昼食も済
ませることにした。昼食後
は来た道を引き返す。戦場
ヶ原でコーヒータムと軽
い散策をした。名前につら
れて「ゆばーば」(ゆばの
フライ)も食べた。十五時
十五分、日光インターを通
過、那須高原SAでお茶と
休憩、十七時半に無事二本
松ICを出て十八時前に解
散、全員無事帰宅。

十月十二日(土) 九月山行、神の絨毯・栗駒山

報告 □□□□



朝は、霧の中、二本松市役所に、四時集合。ちょっとしたトラブルで、福島経由で、飯坂ICより高速で。グルマ二台、六名の参加

・鶴巢PA、八時、休憩
・築館IC、八時四十分で、高速降りて、栗原栗駒中野店セブンイレブン七時、朝食・昼食入手！

栗駒山は、遠くからも、紅葉の赤い色が、わかるほどで、ワクワクしながら、栗駒沼倉パーキング？？、七時四十五分？？、シャトルバス？？で、いわかがみ平、八時二十分到着

・八時三十分、登山スタート、泥濘みで、足場が悪いが、何とか？？転ばず川まで！今度は、水に落ちないように慎重に川を石・岩を渡って！、無事クリア

ちょっと気分を変えて、山道を登り進めると、第一の紅葉？？の景色、栗駒山九時四十五分、夏が、暑かったからか？？少し、アレ？？と、思う紅葉に！？

「神の絨毯」は、こんなもんじゃないだろうか？？と、欲が、MAX！、ドローンやら、報道のヘリ？？も、飛んでました。第二の紅葉・第三の紅葉のスポット(勝手にランク付けしてました)。

栗駒山山頂十時五十分

(昼飯休憩)。山頂は、たくさんの方で、写真撮影の行列で、やっと撮影の順番、後ろの方に頼んで、全員で、記念撮影(区さんは、ちょっとディープな所に足を伸ばして、いませんが！)。十二時、下山開始、お昼休憩中は、ガスってました、下山する頃には、はれてきて、

ゆっくり第四の紅葉？？栗駒山山頂までの、ホームページばりの綺麗な、「神の絨毯」を眺めながら、写真撮影しながら、かなりゆっくりと、下山。

・いわかがみ平も十三時二十分着、豚汁、ノンアルコール飲料で、無事下山に乾杯？？。シャトルバス？？で？？十四時。朝も、早かったため、休憩を多めに取って、福島経由、二本松市役所着、十八時四十五分解散。事故・怪我なく、最高の山行でした。



十月五日(土) 登山教室(実践) 磐梯山

報告 □□□□



ーズン登山を楽しめるのかと。今回の実践は地図読みの習得を目的に、特徴ある一七までの地図上の場所を現地を確認しながら登山道分岐点をコンパスで、整置し進むべき道決定し、自分が何処にいるのかを把握して歩く事を学びながら、弘法清水で昼食後、下山十五時三十分、八方台駐車場に戻り教室は終了。

【参加者】□□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□、□□□□(八名)

【行 動】八方台駐車場、八時集合、八時二十分出発、弘法清水經由山頂に向かった。天候は駐車場から中の湯まで霧の中で視界は無かったが、それが返ってブナ樹林の奥行きを見せて幻想的な空間を創っていた。申



三角点の向こうに山頂祠



登山口で教室開始

十月二十日 (日)

五葉松平登山道整備

報告 □□□□



14時42分、下山して集合、総計15名、カメラの他に2人帰宅、

五葉松平コースは奥岳からロープウェイを使用しないで薬師岳山頂に至る登山道で一部の登山者に人気がある。当日はロープウェイ山頂駅から下山しながら、残り奥岳から登山しながら作業を行った。今年夏が長く、笹など植物の生育が旺盛で登山道が隠されてしまっていた部分も多く、道を外れる登山客も多かった。

今回、草刈機も使用して、しっかりと道判るようにしたので、今年来年は道外す登山客は減ると思われる。前日の十九日は二本松でなんと三十度越えの真夏日。ところが翌日二十日は十一月並の十八度寒い予報だった。それでも良く晴れて日射しも強く、「寒い日」



カラマツ林の脇の道



リフト終点脇で作業

ではなく、奥岳は紅葉見物の客で大混雑、スキー場のゲレンデまで登山客の兼用車で一杯。ロープウェイには人が並び、五葉松登山道も客が多かった。皆さん草刈機まで上げての整備作業に驚き感謝の言葉掛けていた。会員十五人が参加した。

では、草刈機も使用して、しっかりと道判るようにしたので、今年来年は道外す登山客は減ると思われる。前日の十九日は二本松でなんと三十度越えの真夏日。ところが翌日二十日は十一月並の十八度寒い予報だった。それでも良く晴れて日射しも強く、「寒い日」

日本百名山を踏破した頃は、そこに山があるから出掛けた。やがてはこんな辛い体験が懐かしく思えるような日が来るだろうか？と思ったときもあった。今、印象に思うのは、「これが遭難か」と思ったのは三回あった。一番目は、山登りを始めて間もない頃、焼ヶ岳・至仏山・日光白根山を縦走したときだった。山の鼻小屋からアヤマメ平へ向かって歩いていた。当時は登山道が整備されていなかったもので、木道もなかった。平で湿地帯だったので灌木と平地の境を歩いてた。今思うと、獣道に迷い込んだと思う。だんだんと谷の方向に険しい谷間に進んでいく。これはおかしいと気づき、引き返した。行きは楽だったが、かえりみちはササが倒れて居るところを掻き分け尾根に向かって進んだ。人気はなく耳を澄まし、でも声は聞こえなかった。必死で藪をこぎ、やっと湿地帯に戻ったときは何とも言えない喜びだった。遭難して死ぬかと思っただけから。今は木道が整備されているので、あんなところで道に迷う事はないと思う。

二番目も奥日光の白根山でした。岩場を登っているとき、急な道で手をかけた岩がガクンと崩れ私の胸にのし掛かった。その瞬間危ないと思いつ、重いリュック背負っていたが、体をねじり石から逃れた。けっこう大きな石だったか下に転げ落ちた。幸い私の後を登ってくる人もなくホットし、大惨事にはならなかった。今なら登山者も多いので大変な事になったと思う。三番目は、登山のツアーで薬師岳に登ったときでした。山小屋まではまだまだ距離があったときでした。雨が降り出し雷鳴も身近に迫ったときでした。雷鳴が聞こえた頃山の案内人が全員に、山で雷に遭ったときは金属片をはなし、くぼ地にしゃがみ込んで、身を低くする旨の説明があった。その後間もなく「ピカッ」と稲妻が光り「ダーン」とすごい雷鳴だった。家で聞く雷鳴は、光ってからゴロゴロと激しくなるが、山での雷鳴は恐怖を感じた。一人の時ではなかった。心強かった。案内人がこの辺の石に落ちたおと、臭いを嗅いでいた。

今、別の思い出で山登りをした怖かった思い出は幌尻岳の時だった。山は深くの通る道は狭く絶壁で、谷川も深く落ち込んでおり目が回るような道だった。対向車が来たら逃げて返りたいくらいだった。幸に対向車はなかったが、何でこんな危ないところに来たの？と自分に言い聞かせたほどだった。

最近NHKが以前に放映した録画を見て過去を振り返る。今思うと、なんと無鉄砲な登山をしたのか、無事で良かったと反省している。(十月三日受付)

次は、午前二時に行動を始めた夕方までには変えられないからだ。朝(二時)、谷間から見る空には満天の星空だった。この朝幌尻岳に向かうのは数人と思う。林道はまだ暗く、ヘッドライトが何よりの支えだった。ヒグマのテリトリなので、こんな怖いところには何で来たの？と言いがらの登山だった。鈴を鳴らしながら、怖くてフルエル声で歌を歌いながら歩き始めた。ヘッドライトは前だけ、横に向けるとクマさんがいるかと思うと真っ直ぐ前を見て歩いた。一時間くらい歩いたところで、前を歩く登山者に追いついた。どれほど怖かったか、あの時の安堵さは忘れられない。

今、別の思い出で山登りをした怖かった思い出は幌尻岳の時だった。山は深くの通る道は狭く絶壁で、谷川も深く落ち込んでおり目が回るような道だった。対向車が来たら逃げて返りたいくらいだった。幸に対向車はなかったが、何でこんな危ないところに来たの？と自分に言い聞かせたほどだった。

夢は・・・を懐かしむ

報告 □□□□

九月二十六日(木)

個人山行・安達太良山下レッキング

報告 □□□□



2024/09/26 13:29

久しぶりに天気予報では雨マークがない、今日は柎記念病院九時の予約のある日、少し早めに行く。朝一番の診察、九時頃には会計も終わる。薬もスムーズに貰う事が出来た。早速準備をし、十時前家を出、奥岳へ、十時半勢至平方面トレッキング、下山十五時の届けを出し入山する。鳥川手前でキャタピラーダンプ、碎石を満杯に積んだダンプが登って行った。鳥川から

旧道を最後の合流点まで上がり馬車道へ入る。中間位が工事やっている様だ。馬車道合流点がり一番のカーブで弱い霧雨となったので、十一時二十分昼食とす。食事中に霧も上がり、十二時勢至平方面に出発する。綺麗になった馬車道、段差もなく乗用車でも走れる様だ。勢至平、今日の予定は此処まで。時計を見ると午後一時、空も少し明るくなり、見通しも百メートル

ルの上もある、くるがね小屋まで行く事にした。小屋一時半、記念写真を撮っているヘルメット・長グツ・作業服の男性来る。スマホで小屋や廻りを撮りあちこちを見て歩いて居る。小屋一時四十分下山する。勢至平分岐の道標を見ると小屋迄三十分、奥岳七十分とあった。今まではまり気にした事は無かったが今の私には奥岳まで七十分で下れるのかどうかと思

十月十五日(火)

和尚山遭難救助報告

報告 □□□□



い、急ぎ足。そして休憩無しで歩いてみた。工事現場もスムーズに通る事が出来た。最後の旧道を通り駐車場近くまで来ると一人の男性が追い越す。よく見ると元会員のKさんである。声を掛けると「久しぶり」との返事、車も私の脇だった。三時二十分無事下山したが、今の私に七十分で下る事が出来なかった疲れもあり、車の中で少し休み、帰宅する。



和尚山道標。9月20日、会長・観光課が設置

女性を発見、怪我もなくそんなに体力の消耗も少なく自力下山が可能な状態だったので少し休憩、水、お菓子等補給させ十九時二十分下山開始、二十一時二分奥岳捜索本部に戻り解散した。要救助者「二人で奈良から来た七十二歳女性」

性的内一人が山頂付近で下山出来なくなっているとの事、消防、警察十一人態勢ですでに現場に向かっている。追う、ロープウェイ山頂駅十八時十三分出発、山頂に向かう途中樹氷坂付近で本隊と合流、山頂直下、十九時十三分和尚山分岐に到着、GPS信号があった付近を声かけながら捜索、ほとんど要救助者から返事があり新しく設置した和尚山分岐道標にいた

こを動かさないで待機しているよう指示され最後のGPS信号で捜索の位置情報として活かされスムーズな捜索に繋がった。今回の道迷の原因は「一、出発の時間が遅い」、登山者は十月の山は天候にもよるが三時には暗くなりだし日の落ちるのが早いので行動時間短縮を自覚して計画をたてたほしい。

本人から事情を聴取したら、二人して、ゴンドラで山頂に出発したのが午後一時頃で、山頂到着後一緒に来た人と別れ単独で牛の背、馬の背に向かい爆裂火口を見て山頂まで戻り山頂から奥岳に下山するが、誤って和尚山ルートに向かっってしまった。五十分位進んだ処で間違えに気がき警察に電話したら来た道を山頂目指して戻るよう話されたので来た道を戻り、山頂付近で和尚山分岐道標があったので、もう一度電話したら、捜索隊がくるまで、そ

編集後記 四三二一

◆今日は十一月六日(水)、今は十七時四十分、会報最後の仕上げ実施中。部屋は薄ら寒い。今朝は雨が降っていたが、それほど寒くなかった。一昨日(四日)、薬師尾根登山道整備の日、暖かかった、風のない山は「夏」だった。登山客も多かった。山開きの日みたいに、登山客の切れ目が無かった。十一月なのに半袖短パンの人もいた。今年の気候は実におかしい。前回、十月十九日五葉松平登山道整備の前日は二本松では三十度越えの真夏日だった。今日明日は十一月の平均気温に戻るらしい、その後また二十度越えに戻る日もあるらしい。

因みに安達太良山初冠雪、昨年は十月二十二日。◆今駅前の市民交流センターで「大山忠作絵画展」開催中。実は画伯が薬師岳山頂で、安達太良山頂をスケッチ中の写真がある。一九八三年の撮影、四十一年前。当時の当会会員二名も同行。美術館の学芸員も初見という珍品。関係者の許可頂いたので、そのうち公開します。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いので、が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。